

平成
22年度

高齢者を中心とした 地域貢献活動団体 表彰式・事例発表会

去る10月28日(木)、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「高齢者を中心とした地域貢献活動団体表彰式・事例発表会」を開催したところ、当日は台風14号の影響が心配されましたが、県内各地から約380人の参加がありました。

この大会は、県の「元気高齢者チャレンジ推進事業」の一環として、鹿児島県社会福祉協議会が県と共催で開催したもので、今回で3回目になります。

県内各地域で高齢者が中心になって地域興しや様々なボランティア活動を行っている団体を募集し、県下7地域から代表として選ばれた7つの団体が表彰され、続いて7団体から活動状況の発表がありました。

● 受賞団体は次のとおりです。

鹿児島地域：笠松老和会(鹿児島市)
南薩地域：金峰お手玉の会(南さつま市)
北薩地域：清色婦人ボランティアグループ(薩摩川内市)
始良・伊佐地域：始良市思川みどり会(始良市)
大隅地域：音楽体操グループ(大崎町)
熊本地域：上西すこやかクラブ(西之表市)
大島地域：湯湾老人クラブ仲よし会(宇検村)



● 受賞団体の主な活動事例



棒踊りの伝承
(笠松老和会)



お手玉で健康体操
(金峰お手玉の会)



長寿マスコットと紙人形づくり
(清色婦人ボランティアグループ)



いきいきクラブ(ひな祭り)
(始良市思川みどり会)



身近な道具で健康体操
(音楽体操グループ)



放課後児童預かり事業
(上西すこやかクラブ)



公園清掃活動
(湯湾老人クラブ仲よし会)

この後、鹿児島大学名誉教授で、霧島市溝辺町で「萬田農園」を経営されている萬田正治氏による基調講演がありました。

演題：唱歌「^{ふるさと}故郷^{おも}」を想う



萬田先生は、鹿児島大学農学部教授・副学長を勤められ、平成15年に鹿児島大学を退職された後、霧島市溝辺町竹子で合鴨農法を基軸とする萬田農園を経営されています。

また、平成3年から全国合鴨水稲会代表世話人として合鴨農法の普及活動を行い、平成13年に朝日新聞社「明日への環境賞」を受賞されるなど環境問題に造詣が深く、講演の中で農村の自然環境は破壊されて、農村社会は崩壊の危機にあるのではないか、その理由として自然環境を汚染する農業、田園から消えていった動物たちなど事例を交えて話されました。中山間地農村では農村社会そのものの崩壊が迫ってきており、農村の再生、自然環境の復元など「ふるさとの再生」に向けて、①教育の必要性から「竹子農塾」を開塾 ②都市部との連帯を図るための「田主制度」の創設 ③流通を確保するための「農林産物直売所」のオープン ④研修生を受け入れて後継者の養成など数々の取り組みを話され、先生の郷土愛に満ち溢れたご講演に、参加者は深い感銘を受けておられました。